

令和3年度実施

松千代館再生プロジェクト

愛知県瀬戸市の「せと末広町商店街」にある「松千代館」のリノベーションを行います。長年空き旅館となってきた「松千代館」を学生シェアハウスとして活用すると共に、地域の方々に広く使っていただくためのまちづくりの拠点として活用していきます。



背景 / 「松千代館」の現状

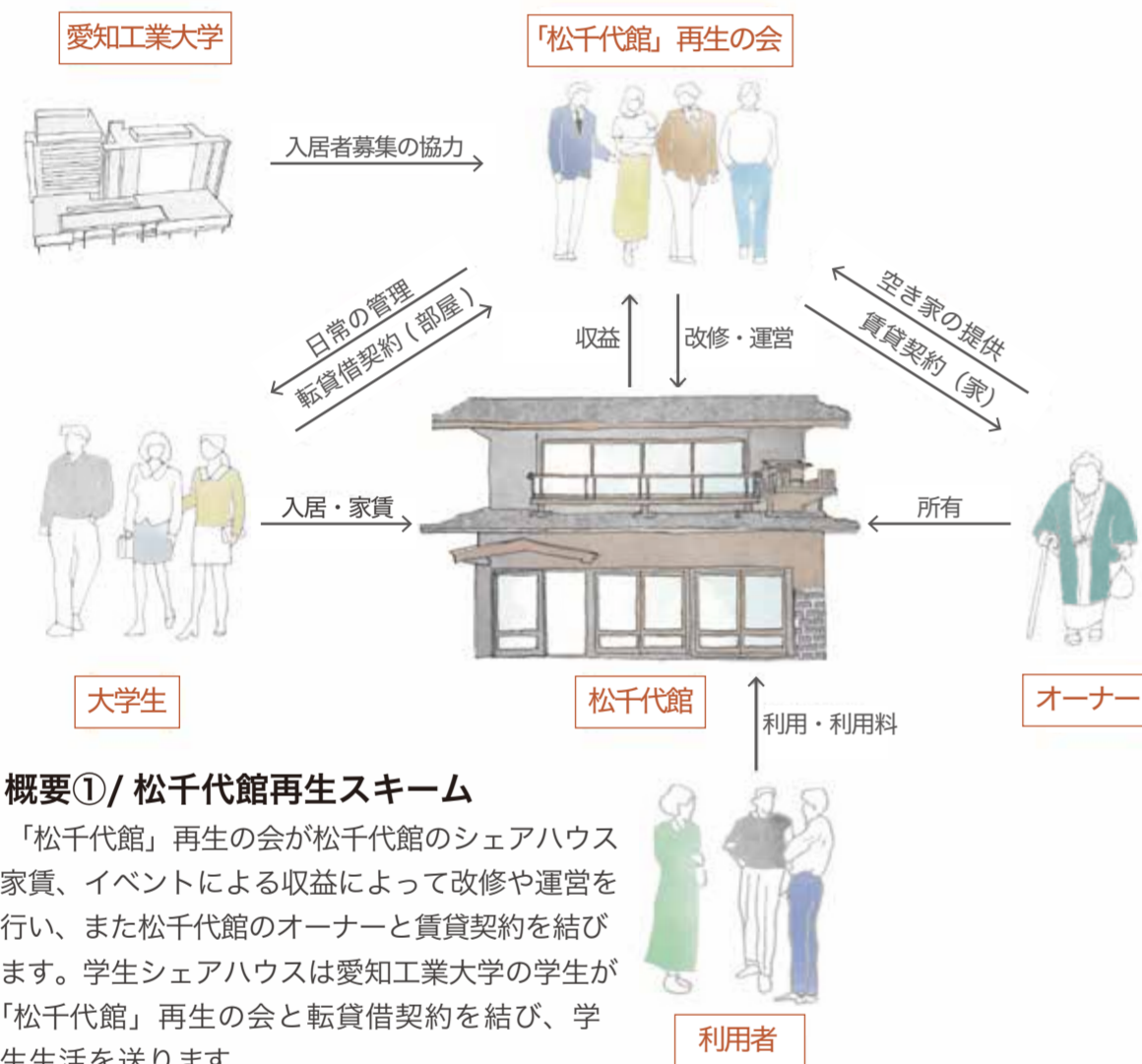
「松千代館」は、愛知県瀬戸市の「せと末広町商店街」で最も古くから存在する元旅館。空き家となって20年余り、このまま放置することが危険な状態で解体の危機にも瀕しています。再生に向けた有志のメンバーで、耐震補強や水回りの修繕などを行います。「松千代館」は大正～昭和初期の瀬戸市の陶磁器産業の全盛期を陰ながら支えてきた歴史の象徴です。このような産業的歴史を残す建築が少なくなってきている中、「松千代館」を残すことが、「陶磁器産業の文化と歴史の一部として残していく」という意味でも価値あることだと考え、修繕し活用することで、未来につないでいくことを決めました。



昭和2(1927)年の瀬戸の地図



昭和初期の「松千代館」の様子



概要②/ クラウドファンディングの活用

「松千代館」の再生にあたり、クラウドファンディングによる資金調達を実施しました。クラウドファンディングはインターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみです。6/13～7/13の調達期間で143名もの支援者の方々によって、「2,817,000円」という目標を上回る結果でクラウドファンディングを終えることができました。

(資金の使い道)
壁の耐震補強・床の歪み補正・床材の張り替え・トイレ/風呂の修繕・壁の補修・建具の修繕など

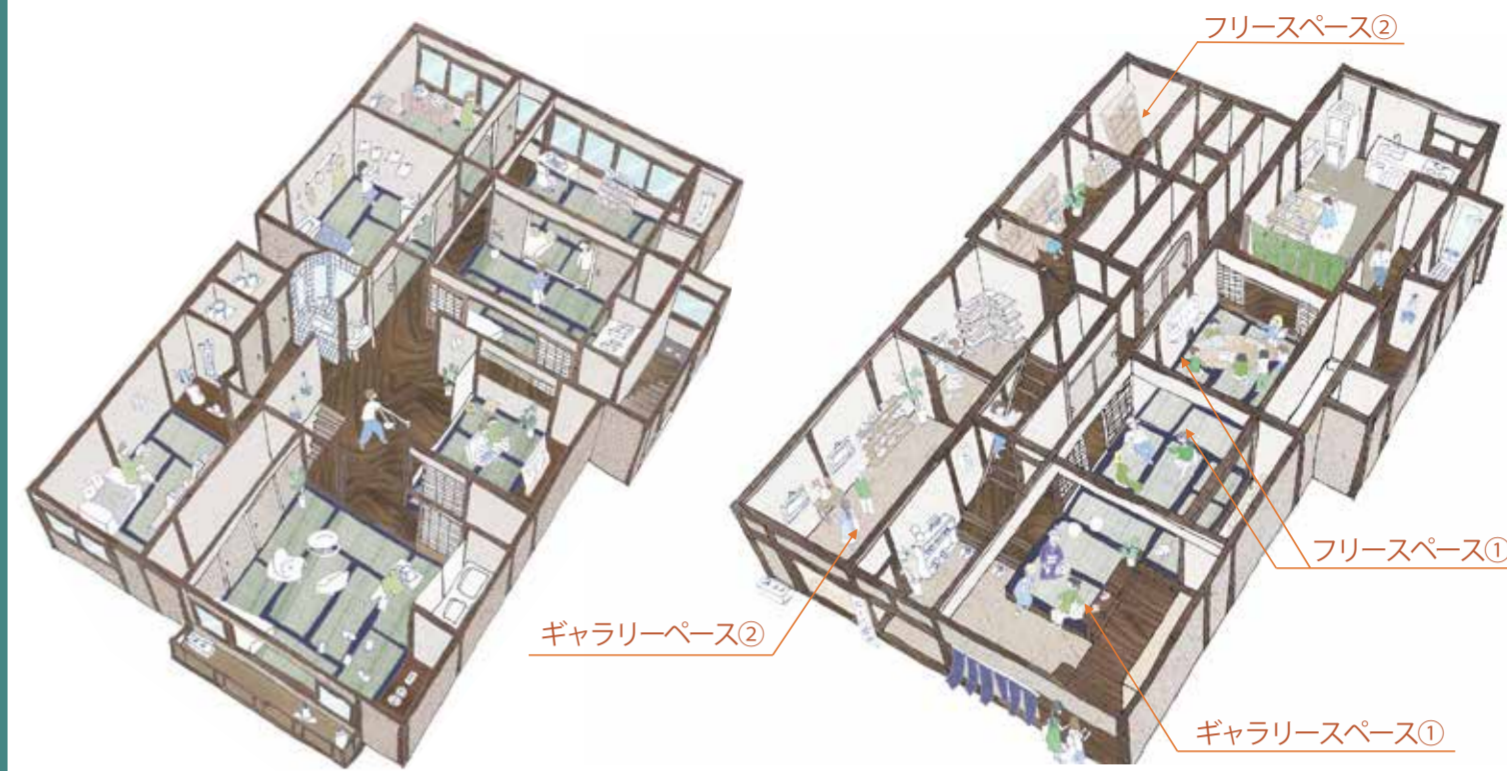
プロジェクト参加者

- 企画運営 「松千代館」再生の会 鈴木芳枝(代表) 大木一 深澤創一 益尾孝祐
- 入居者 愛知工業大学建築学科 学生
- 支援者様 クラウドファンディング支援者の皆さま

1. 現地調査 / studio36の深澤さん、瀬戸市職員の方と共に (2021/3/13)
2. ワークショップの様子 (2021/3/13)
3. 大掃除の様子 (2021/5/1)
4. 解体ワークショップの様子 (2021/5/15)
5. 指導を受けながら松千代館のリノベーション作業に参加 (2021/7/9～8/12)

学生シェアハウスから始まる「まちびらき」

愛知工業大学の学生がシェアハウスに住み、同時に、松千代館を積極的に地域に開きます。商店街の賑わいづくりに貢献していける場所として運営していきます。



2階 学生シェアハウス
2階は学生向けのシェアハウスとして、地域の文化やまちづくりを学ぶことができる「共同の住まい」として活用していきます。

1階 シェアスペース
1階はギャラリーやイベントでの貸し出しスペースなど、シェアスペースとして、地域の方に広く使っていただく場所として活用していきます。

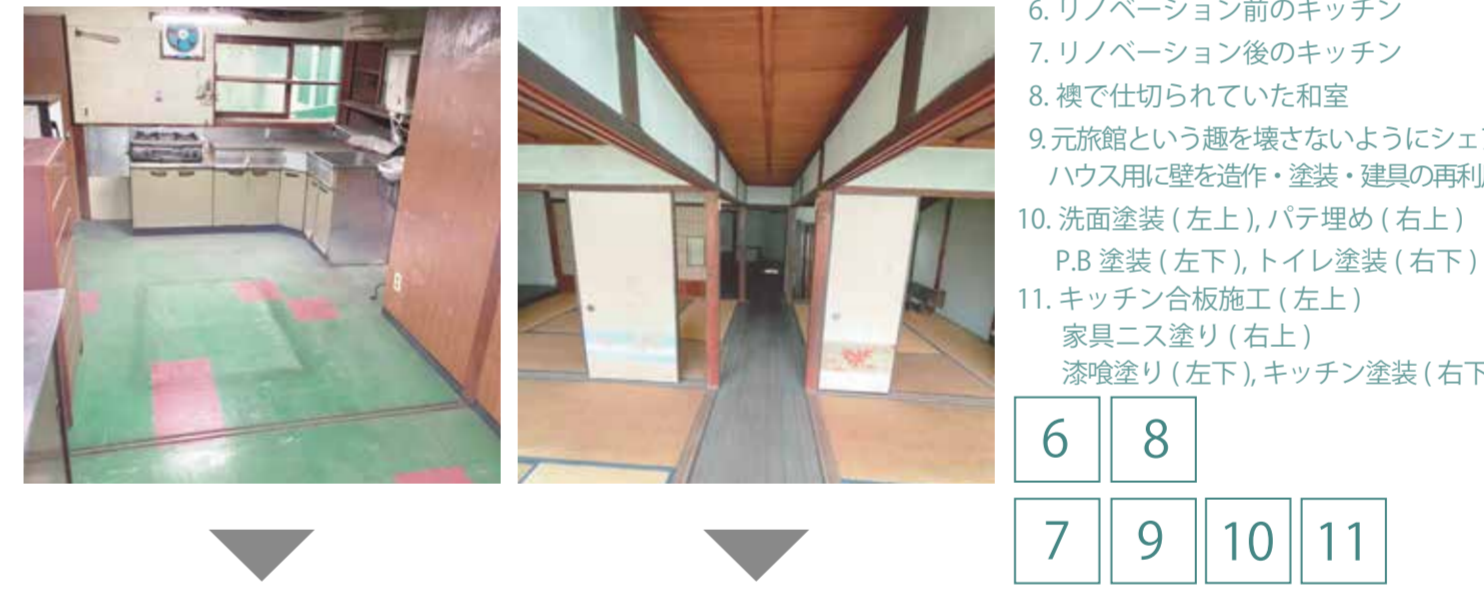
商店街との繋がりをつくる

- 作品に触れることで、ものづくりの考え方を学ぶ「ギャラリースペース」
- ワークショップなどで人が関わり話し合うことで学びあう「レンタルスペース」
- 学生が、歴史的建造物・空き家問題などの課題などを住みながら学べる「学生シェアハウス」を運営し、「人が集える学びの場」を目指すことを目指します。また、「まちづくりサロン」を定期的に開催し、地域の方とまちづくりについて話せる場をつくりたい。

例えば、

- 松千代館のリノベのポイント。
- 瀬戸の歴史的建筑を探そう!
- 瀬戸の空き家の課題を知ろう。
- 全国のおもしろい商店街はどんなことしているの?

など、幅広い世代の方が興味を持てる企画を計画しています。



作りながら暮らす

「松千代館」は愛知工業大学の学生が中心となり 2021年3月ごろから学生らがワークショップ、解体作業、大掃除などを手伝いながら少しずつ住む環境を整えています。2021年9月から本格的に入居が始まりましたが、塗装や壁、棚の造作など仕上げ部分は学生がDIYによって学生シェアハウスとして生活を営みながら来年以降入居してくる学生に繋いでいきます。

